

アルフィン 雨に対する考え方

「庇」の大きな役割のひとつ「雨よけ」
庇における「雨よけ」とは、「雨をよける」ことではありません。
「雨をうけて、排水」する。
アルフィンにおける雨量と排水量の考え方をまとめました。

降雨強度とは

●参考降雨強度

瞬間的な雨の強さを1時間あたりに換算した雨量を降雨強度といます。

アルフィン「ひさし」は右の表を元に標準値を80mm/hとしております。

降雨強度(mm/h)	通称	降雨状況
20~30未満	強い雨	大雨注意報が出る
30~50未満	激しい雨	大雨警報が出る
50~80未満	非常に激しい雨	大雨警報が出る 多くの災害が発生する
80~	猛烈な雨	記録的短時間大雨クラス 甚大な災害が発生する

降雨強度

瞬間的な雨の強さ
現在降っている雨が1時間降り続いた場合に相当する雨量

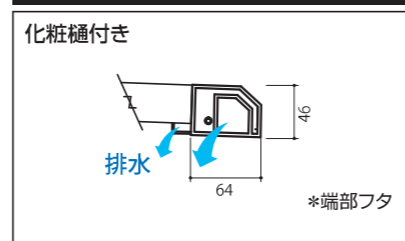
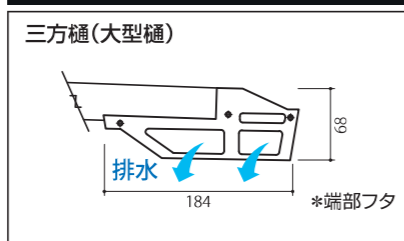
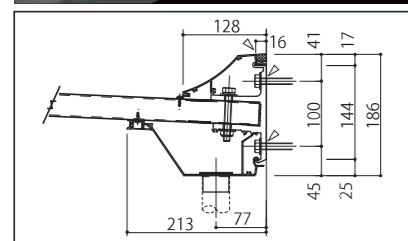
降雨量

一定時間に降った雨の量

排水能力について

のきどいの種類や落し口種類により排水能力は異なります。

■のきどい



■たてどい



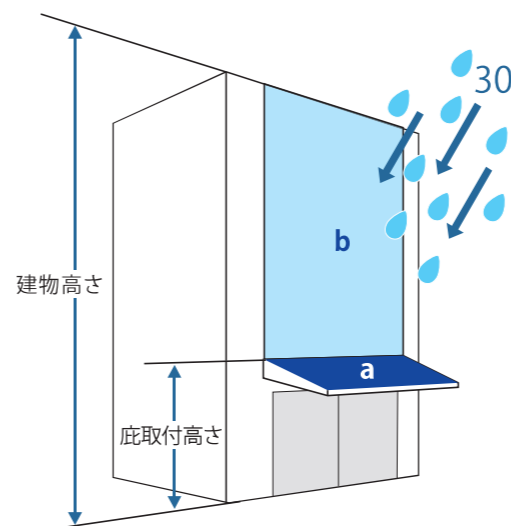
丸たてどい
60φ



角たてどい
45角

●たてどいの詳細はP55~P58をご覧ください。

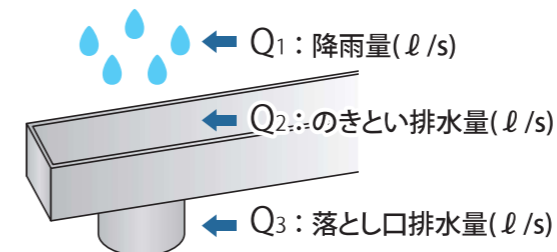
雨量計算について



●庇で受ける雨量の算出

$$\frac{[\text{庇面積}] + [\text{庇上部の壁面積} \div 2]}{a} \times \text{降雨強度(mm/h)}$$

※アルフィンでは庇で受ける雨量に加えて、庇上部の壁で受ける雨量も考慮しています。
(雨が垂直面と30°の角度で吹きつけるものとして、その外壁面の面積の50%を加えています。)



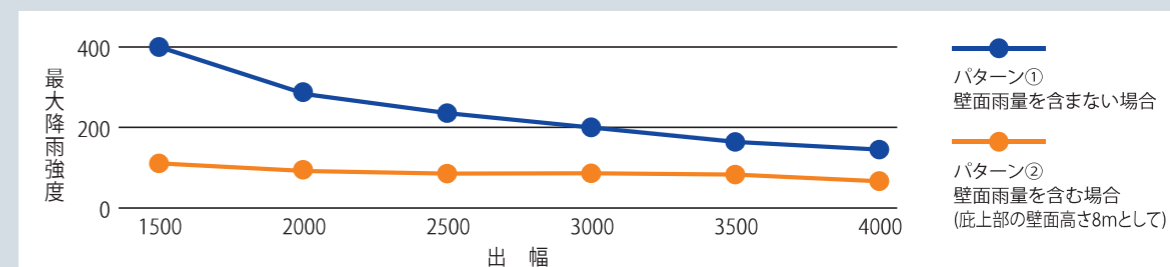
$$Q_1 < Q_2 < Q_3$$

降雨量に対して、のきどい及び落し口の排水量が上回ることで、雨水はたまることなく、たてどいへ排水されます。

参考降雨強度〈AD-Rの場合〉

●AD-R 全長4000mm/45角たてどい1カ所として

出 幅		1500mm	2000mm	2500mm	3000mm	3500mm	4000mm
パターン①	壁面雨量を含まない場合	378mm	283mm	227mm	189mm	162mm	141mm
パターン②	壁面雨量を含む場合 (庇上部の壁面高さ8mとして)	103mm	94mm	87mm	81mm	75mm	70mm



底のプロアルフィン
雨を研究したアルフィンの答えがカタチに

個別での雨量計算を承っております。詳細は弊社営業までお気軽にお問い合わせください